

## 事業者からの事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和5年3月1日

事業所名 体感クラブLes sourire上天神

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標 工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	62.5%	37.5%	—	利用人数が多い日はプログラム内容や環境を考えて行っている。 目的に合った居室(感覚統合・個室支援)があればより良い。
	②	職員の配置数は適切であるか	37.5%	50%	12.5%	スタッフの数が足りず、ヒヤリハットが起こる時もある。 よりよいサービスを提供するために増員を検討している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	87.5%	12.5%	—	段差もなく、障がいが原因で制限されていることはない。 室内の引き戸はレールレスになっている。 トイレ支援ができるように広めに設計されている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	75%	12.5%	12.5%	朝礼・昼礼にて前日の振り返り、策定会議にて個別目標の設定を行っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	87.5%	12.5%	—	アンケート以外にも日頃の送迎時やモニタリング担当者会議などでよりよいサービスに向けた話し合いを行っている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	87.5%	12.5%	—	インスタグラムで開示している。 毎年3月にホームページで公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	62.5%	37.5%	—	市の指導監査を実施している。 第三者評価については検討中。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	—	—	現任研修や外部の研修に参加している。 毎週木曜の午前中に社内研修を実施。 社外研修にも積極的な参加を促している。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	—	—	初期アセスメントに加え、随時追加記入を行っている。 見学の時点で聞き取りを行い、契約時には話し合いを行っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	75%	25%	—	初回は保護者様よりアセスメントを実施、必要に応じて個人の行動記録等も活用し、定期的に改訂を行い、状況や課題の把握を実施している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	75%	25%	—	各スタッフが案を持ち寄りプログラム内容を検討している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	87.5%	12.5%	—	同じようなプログラムでも少し変化をつけるようにしている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	87.5%	12.5%	—	活動時間や季節、イベント等に応じてプログラム内容を工夫している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	—	—	比較的個人課題に沿った集団での活動の計画になっているが、状況に応じて個別対応に切り替え、課題の達成に向けて対応している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	87.5%	12.5%	—	昼礼にてメンバーの引き継ぎと当日プログラムの周知を行い場合によってはシミュレーションを行う。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	62.5%	37.5%	—	送迎後なるべくその日のうちに話す翌日の朝礼時に申し送ることもある。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	—	—	毎日の活動日誌、家庭との連絡帳に加え、個別支援計画に基づいた記録もつけている。	

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	—	—	児童発達支援管理責任者が6ヶ月に1回のモニタリングを実施、送迎時にも保護者様より計画と実績の評価を頂き、策定会議で全職員と情報を共有し、見直しの必要性を含め検討している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	75%	25%	—	ガイドライン内容に沿い、運動を通じての活動を基本とし、外部講師とも連携を図り、支援の充実に努めている。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか	87.5%	12.5%	—	児童発達支援管理責任者が現場の職員からの情報を統括し、会議にて、活動の様子や支援方針等について、各関係機関に情報を発信している。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	75%	25%	—	学校と家庭それぞれと連絡を取り合い、送迎の時の引継ぎがスムーズにできるよう努めている。
	㉒	医療的ケアが必要な子供を受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	75%	12.5%	12.5%	現在、医療的ケアが必要な児童の在籍は無いが、初回のアセスメントを実施の際に、児童発達支援管理責任者が緊急時の対応、投薬管理等の情報共有を行い、その後も対応方法等の確認を随時行っていくことで、受け入れ態勢の整備を行っている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等の間で情報共有と相互理解に努めているか	75%	25%	—	新1年生の受け入れに際しては、児童発達支援管理責任者が各関係各所への情報共有を密に行い、現状を理解した上で、受け入れ態勢を整えている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	87.5%	12.5%	—	相談支援専門員を介して、情報提供を行う場合や児童発達支援管理責任者が各関係機関と会議を行い、直接、情報提供し、円滑に移行できるように対策を講じている。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	87.5%	12.5%	—	全スタッフがなるべく均等に研修に参加できるように配慮している。助言を受けることはあるが研修への参加は少ない。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	—	37.5%	62.5%	弊社主催のイベントを計画していたが、コロナ禍で感染症の影響もあるため実施までには至らなかった。感染症の動向を確認しながら、検討していく。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	25%	37.5%	37.5%	コロナ禍で、感染症の影響も含め、機会を見て参加を検討していく。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	—	—	送迎時に保護者様に申し送りをし、都合上、内容が全て伝えきれない場合等は、メモ書きを渡しお伝えするか、電話、メールを活用し、詳しい状況説明を行う。また、児童発達支援管理責任者が電話連絡やモニタリング、担当者会議等を通じて共通理解を深めている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	62.5%	25%	12.5%	まずは傾聴し、家族の意思を尊重する。その上で必要に応じて支援を行っている。押しつけにならないよう配慮する。
保護者への説明責任等	㉚	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	87.5%	12.5%	—	契約時に児童発達支援管理責任者が保護者様へ説明を実施、その後も随時、保護者様からの問い合わせにも対応させて頂き、職員間でも情報の共有を行うことで対応させて頂いている。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	87.5%	12.5%	—	児童発達支援管理責任者を中心に、送迎時の申し送りの際や電話での連絡の際に状況に応じ必要な場合によっては助言させて頂き、随時、問い合わせにも対応させて頂いている。必要に応じて、相談支援専門員を含めた各関係機関とも連携を図り、対応させて頂いている。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	25%	62.5%	12.5%	保護者参観、座談会、参加型のイベントを計画していたが、コロナ禍で感染症の影響も含め未実施であるため、保護者様の意向なども含め、検討していきたい。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	87.5%	12.5%	—	保護者様からの意見、要望等がある場合には迅速な対応を行い、事務所側からも積極的に尋ねさせて頂き対応している。
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	—	—	月に1回、レズリ新聞を発行。随時、インスタグラム、フェイスブックを更新。

	③⑤	個人情報に十分注意しているか	100%	—	—	書類物や個人情報の漏洩がないように取扱いには十分な配慮を実施し、対応させて頂いている。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のために配慮しているか	87.5%	12.5%	—	会議、送迎時等に保護者様と情報の共有を行い、状況を確認した上で、意思疎通が図れるような環境や支援の配慮を行い対応させて頂いている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関われた事業運営を図っているか	50%	37.5%	12.5%	計画していたがコロナ禍で感染症の影響も含め実施を見送る結果となった、今後の感染状況等を考慮して対策を講じていきたい。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	87.5%	—	12.5%	常に最新の情報を更新し、法人内にあるマニュアルにも全職員で読み合わせ及び確認の実施を行い、統一された対応ができるように対策している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に非難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	—	—	火災発生時、地震発生時の避難訓練を年に2回実施し、非常時に対応できるように法人全体で取り組んでいる。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	—	—	定期的に、虐待防止の研修を法人内で実施、支援において不適切な処遇が無いか振り返りを行う。R4年の4月から、虐待防止委員会を設立し、より一層の虐待に関しての認識を深め支援の向上に努めていく。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	100%	—	—	児童発達支援管理責任者が保護者への説明を実施、契約書類にも掲載する。個別支援計画書への記入、説明も行い、保護者様の同意を得る。上記の研修で、身体拘束解消に向けた対応策を講じている。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医あいき師の指示書に基づく対応がされているか	87.5%	12.5%	—	事前に保護者様へアレルギーの確認を行い、検査結果等のコピーも頂く。会議等で全職員に周知し、事故に繋がらないように対応している。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	—	—	ヒヤリハットの事案発生日に記録様式に記録し、全職員に周知する。朝礼、昼礼で事案についての対応方法を検討し、再発防止に努める。法人全体でも定期的にヒヤリハットの事案を報告し、全体に周知及び対応方法の検討を行っている。